

ドングリ銀行開設

今年も斜里町の知床ドングリ銀行が開設されました。9月21日の開設式では、当センターから2名の職員を派遣し、約40名の町民とともにドングリを集めました。全員併せても1kgに満たない不作となりました。一方、ドングリを集計する時間を利用して、当センター職員が植物タネ模型の作り方を子供たちに教えたところ大人気となり、大人も夢中になって遊んでいました。



総合学習の授業に参加

十月六日(金)、斜里町立朝日小学校で公開研究会が開かれ、当センターの所長が五年生のゲストティーチャーとして参加しました。子供たちから、きれいな空気やおいしい水を守るためにどうしたらよいかと質問され、森林を守ることの大切さを説明しましたが、「木は本当に炭酸ガスを吸っているの?」と聞かれ答えに詰まる場面もありました。

第34回森とのふれあい

10月22日(日)に、第34回森とのふれあい『自然観察会』を実施しました。今回は当センターと斜里町知床博物館の主催で行われ、町内から7名の参加がありました。イベント箇所は斜里町内の海岸沿いの保安林で1.6kmのコースです。当日は晴天に恵まれ、足下の落ち葉を踏み分けながら森の中に入りました。途中で縄文時代の住居跡、エゾモモンガの巣穴、キノコの役割、保安林の働きなどの説明を受け、赤いナナカマドの実や紅葉を楽しみながら2時間余りをかけて森を観察しました。



僕は、自然と森林について調査した田中脩です。この前は、森林の事、栗運の水の事を色々教えていたんですが、栗運の水の事を調べたので今度、温度計を持って行って温度を調べてみたいのです。今の栗運の水をもっとおいしくするには、斜里町の森林などを大切にすることが大事だと思います。僕達もわがりました。また、僕達の所へ来て色々な事を教えてくださいます。

知床の森から



北海道森林管理局北見分局

〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地

知床森林センター

Tel 01522-3-3009

FAX 01522-3-3160

ホームページ <http://www.siretoko.knc.ne.jp/>

平成12年11月 第69号



「ゲラちゃん」

知床森林センターシンボルマーク

知床では少し山に入れば
まだクマゲラに逢うことが
できます。

知床は今

紅葉の最中です。間もなく紅葉が過ぎ知床の自然の営みは、さりげなく冬に入っていきます。オホーツクの海は渡りのカモたちを憩わせ白い波を見せながらうねっている。まもなくオオワシやオジロも北風に乗って飛んで来ます。今は動物達も冬支度に大忙し。今年は多くの動物の餌であるドングリの稔りが今一つです。変わりにコクワやクルミ、キノコは豊作で動物ばかりでなく人間も山に入り秋の恵みにあずかりました。厳しい知床の冬を乗り切るために、人の事な



ど構って居られないとでもいいかげんに、エゾリスが忙しく木の実を運んでいます。

羅臼岳にも10月13日初冠雪が見られました。エゾシカの鳴き声が一層物悲しく響き渡ります。野生生命のきらめきと躍動に満ち溢れた知床の大自然を訪れた観光客の姿も減り、ウトロの町は、オホーツク海に流氷が来るまで、しばしの静けさを取り戻します。

ボンホロ沼で小学校の遠足

8月5日、峰浜小学校の遠足が行われ、当センターより職員を派遣し森林教室を行いました。

コースはボンホロ沼1周コースで、当日は天候にも恵まれ生徒と先生あわせて19名を案内しました。

まず、サルノコシカケ（ツリガネタケ）が沢山連なっている木を見ながらキノコは木を腐らせて土にかえすことを説明しました。

ミズナラとトドマツの木の前ではトドマツの種をみんなで探して、木はいかにして遠くまで種を飛ばす工夫をしているのか考えました。

聴診器で樹の音を聞いた時はみんな真剣な面持ちで樹の音に耳を澄ましていました。

木の幹にはセミの抜け殻がついており、こんなに沢山の抜け殻を見たことがないのか幾つ抜け殻を見つけられるか数えたりしました。

コース途中には、ミズナラの大木もあり、太さはどれくらいだろう？何歳くらいだろう？とみんなで考え、巻き尺で太さを測り年齢を推測しました。クマの大きな爪痕を見た生徒は感



心しながら爪痕に触り、知床のクマの存在を身近に感じたようでした。

遊歩道沿いには様々なキノコも見られ、タケ箒を逆さまにした様なホウキタケの仲間を見てこれもキノコなの？と興味深々。キノコを見つけるたびに「あっ！キノコ」と叫んでいました。

ボンホロ沼には水が無くなり一面に小さなシダ類が育ち、緑の広場のようになっており子供たちは虫を追いかけ走り回り元気いっぱいでした。

第21回「しれとこ産業まつり」

第21回「しれとこ産業まつり」が10月1日（日）行われました。当日は快晴に恵まれ多くの人出で賑わいました。立ち並ぶ出店では趣向をこらし、地元産品の紹介や食品類などが売られ、また、ニジマス、タコのつかみ取りやイベントなどの催し物で近郊の見物客もあり会場は大賑わいでした。

当センターと斜里営林事務所では今年も「催し物」で参加し、多くの人達が足を止め好評でした。催し物は、知床の動植物を紹介したプリントアウトしたハガキプレゼント、木の葉当てクイズ、森林教室、丸太切り体験、キノコ類の展示、空中写真実体視です。

木の葉当てクイズは男女年齢を問わず人気がありました。森林教室では子供たちに人気があり、また、材料を孫にと持



ち帰る年配者もおりました。

丸太切り体験では昔懐かしく鋸を握り曳く年配者や、子供たちには物珍しさが多数の参加を呼んだようです。緑の法被姿で今日一日大忙しのセンター職員でしたが、催し物を通し「知床の森」の理解を深める存在としてアピールすることが出来たようです。

第54回 森林レクリエーション・in 知床

「植物観察・羅臼湖湖沼巡り」

9月24日（日）に、第54回森林レクリエーション・in 知床『植物観察・羅臼湖湖沼巡り』を開催しました。今回のイベントは、知床峠から羅臼側に3Km下がった国道沿いの入口から羅臼湖に至る遊歩道沿いに点在する湖沼群を見ながら最終目的地の羅臼湖に至るコースです。

当日の天候は曇りで、現地は標高が高いため霧雨模様でした。参加者は北見市、網走市、斜里町からの24名で、年齢は31歳から71歳の方でした。

参加者は、一の沼から順に続く五つの沼、水面のミツガシワなど湿原の植物を観察し、遊歩道沿いに赤い実を付けたナナカマドなどの説明を受けて、霧が掛り神秘的様相を見せる終点羅臼湖で昼食を取りました。

羅臼湖をバックに記念写真を写し、午後から来た道を折り返して往復6m余りの行程を観察しました。

今回は霧雨模様で、回りの景色が見渡せなかったことから参加者の皆さんは、もう一度天気の良い時に来てみたいと話していました。



第55回 森林レクリエーション・in 知床

「紅葉の森で森林浴・自然観察」

森林レクリエーション・in 知床『紅葉の森で森林浴・自然観察』を10月12日（木）に知床自然観察教育林で開催しました。

当日は23名の参加となり、朝はあいにくの曇りでしたが所々青空が広がる天気になり、約5キロの山道を歩きながら秋の知床を楽しみました。

コース途中には1メートルを超えるミズナラの大樹も見られ、その雄大な姿に参加の皆さんは感動していました。

水の枯れたボンホロ沼の跡には彩られたヒメシダの絨毯が広がり参加者の目を楽しませていました。ヒグマが樹木につけた大きな爪痕もあり、知床の森に住むヒグマの存在を感じていたようでした。

コクワやヤマブドウも実り、ちょっと酸っぱい秋の味覚を楽しんでいました。

秋色に染まった木々の向こうに滝を見ながら遊歩道を歩き、コース沿いにはムキタ

ケ、ムラサキシメジ、クリタケがあり歓声があがっていました。

彩られた森を歩きながら、樹木の種子は動物や風などによって遠くまで運ばれることや、倒木は森を守り育てていること、木の子供達は森の跡継ぎなど、インストラクターの解説をうなずきながら聴いていました。

